

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第155号	氏名	Pandey Kishor
学位審査委員	主査 平山謙二 副査 青木克己 副査 中込治		
論文審査の結果の要旨			
1. 研究目的の評価			
<p>本研究は、ネパール南部のリーシュマニア症の分離株を多数収集し、原虫の遺伝的な多様性について調べ、さらにその実験動物への感染モデルを作成することによって病原性の解析や治療薬の開発に資することを意図したものであり、目的は妥当である。</p>			
2. 研究手法に関する評価			
<p>流行地の中心的な地方病院2箇所を訪れる内臓リーシュマニア症患者の骨髓穿刺サンプルより、培養株29株を分離し遺伝解析に供した。さらに同じ原虫株29株を用いて、感受性と考えられているヌードマウスやBalb/cマウスに対する感染実験を行ったものであり、研究手法も妥当である。</p>			
3. 解析・考察の評価			
<p>上記手法で観察・解析した結果、調べた範囲では遺伝的な多様性はほとんど認められなかったが、感染性をマウスに対する感染の強度で観察した結果、株による強度の違いが認められたことから何らかの株間の多様性が存在することが示唆された。</p>			
<p>以上のように本論文はネパールにおけるリーシュマニア症の病態解明に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			